



帰国教師実践報告会・在外教育施設派遣個別相談会

令和6年度帰国教師実践報告会・在外教育施設派遣個別相談会が、5月25日（土）、群馬県生涯学習センターにて実施されました。前回同様、JICA群馬デスクと共同で開催し、合計25名の方が参加してくださいました。

今回は、3月に帰国された先生方のうち、2名の先生による教育実践報告会とカンボジアへ派遣されている1名のJICA隊員によるオンラインでの発表、在外教育施設派遣に興味のある先生方への個別相談会が行われました。

冒頭の石原会長のあいさつでは、本研究会についての説明と帰国教員の発表を今後の教育実践に生かして欲しいと話がありました。また、共同開催したJICA群馬デスクの笹塚さんより、JICAの事業説明や国際理解教育支援事業のお話がありました。



帰国教師実践報告会

今回は、上海日本人学校浦東校に校長として派遣された中本晋先生とベルリン日本人国際学校に派遣された大野創先生が実践を発表しました。

日本より遥かに進んだ高層ビルや新幹線など、一見華やかな上海ですが、水は直接飲めなかったり、少し地方に行くとトイレの問題があったりしたそうです。また、コロナ禍での派遣となり、教科書もない中で実施せざるを得なかったオンライン学習、校長として人材確保など、管理職としてのご苦労が多くあったようです。難しい日中関係の中で、中日スピーチコンテストなど、国際理解教育に力を入れていたとのこと。中国語の習得や物価の高さには苦労があったようですが、全てバーコードで決済できるシステムや衣食住が高いレベルで整っている上海の様子、すばらしい学校、充実した授業、派遣教員が抱えざるを得なかった問題点など、参加者も熱心に耳を傾けていました。



大野先生からは、学習指導要領に沿った学習に加え、ドイツ語や英会話の授業があること、現地校との交流やベルリンマラソンの一部に参加して行うマラソン大会などといった特色のある学校行事の紹介がありました。小1から中3まで合わせても20名ほどの小さな学校で、教材研究の時間がなかなか取れないことや専門外の授業、行事の精選、教材がすぐに手に入らないなどご苦労があったようですが、難しさの中でも工夫して職務に当たっていたとのことでした。ドイツの街の様子やドイツの文化も交えて発表され、さまざまな経験から視野が広がったことがわかり、将来的な派遣を見据えた参加者の方々にも実りある発表となったはずです。



個別相談会

報告会の後は、小グループに分かれ、個別相談会を実施しました。派遣までの選考や渡航までの準備、実際の現地での生活の様子など、派遣教員が質問に答えさせていただきました。



次回は、11月9日（土）@生涯学習センターの予定です。